

都市再生整備計画

ごひやっこくえきしゅうへんちく
五百石駅周辺地区

とやまけん たてやままち
富山県 立山町

令和7年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	富山県	市町村名	たてやままち 立山町	地区名	ごひやくしゅうきしゅうへん ちく 五百石駅周辺地区	面積	209	ha	
計画期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度	交付期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度

目標 大目標：町の中心部として、都市機能の集積をコンパクトに図りながら、暮らしやすさと賑わいを高め、定住・移住者を促進する魅力あふれるまちづくりを進める。 目標1：五百石駅周辺地区において多世代の町民が交流し賑わいの創出を目指す。 目標2：五百石駅周辺地区において子供から高齢者までが快適に過ごすことができる生活環境の整備を目指す。 目標3：五百石駅周辺地区において快適に回遊することができる道路環境の整備を目指す。
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 立山町では、五百石駅周辺に、役場や保健福祉施設、図書館など生活に欠かせない公共機関や金融機関、医療機関、町内唯一の中学校と高校が立地し、中心市街地を成している。町内の10の行政区のうち7つの行政区には食料品や日用品が購入できる商業施設は全くないため、特に自家用車を運転できない高齢者等は、公共交通を利用して日常的に五百石駅周辺に日常的に足を運んでいる。しかし、平成17年の富立大橋開通を契機として、郊外の利田地区において商業施設の開業や住宅地の開発が進んでおり、五百石駅周辺の中心市街地では近年、スーパーや商店街の個人商店の閉業が相次ぎ、空き地・空き店舗が増加し、中心市街地の空洞化が進んでいる。また、地域住民の活動拠点である町立五百石公民館は、建物の老朽化が進み建て替え時期を迎えている。 こうしたことから、町の公共交通の結節点である五百石駅の周辺に、町立五百石公民館の機能を移転させる形で地域交流センターを建設し、地域の賑わいと交流の拠点とする。地域交流センターは、公民館機能だけでなく医療機関等の公益性の高い民間施設等も含む複合施設として整備し、都市機能をコンパクトに集積することで、中心市街地における生活の利便性を向上させる。同時に、五百石駅周辺に道路や歩行支援施設、地域防災施設を整備し、中心市街地で子どもから高齢者までが快適に過ごすことができる生活環境を整える。さらに、中心市街地及びその周辺の居住誘導区域における住宅取得や住宅団地造成に対し助成を行い、五百石駅周辺の人口及び世帯数の維持・増進を図る。 公的不動産の活用策として、地域交流センター及び商業施設は、郊外移転した病院や閉業・移転した店舗跡地など民間所有の低未利用地を活用する。
まちづくりの経緯及び現況 (町の状況) ・立山町は、県南東部に位置する人口約25千人の町で、県中央部から東南に細長く位置し、山間部には立山連峰、立山黒部アルペンルート、称名滝などを有し、平野部には水と緑豊かな田園が広がっている。 ・役場や保健福祉施設、図書館など生活に欠かせない公共機関や金融機関、医療機関、町内唯一の中学校と高校が、富山地方鉄道立山線の五百石駅周辺に集中している。 ・公共交通機関は、町を南北に走る富山地方鉄道立山線のほか、五百石駅を結節点として、町と富山市を結ぶ路線バスや、町中心部と町内各地区を結ぶ町営コミュニティバス、タクシーが走っている。 ・少子高齢化が進んでおり、全国平均より高い高齢化率となっている。 ※H27国勢調査30.6%(全国26.6%) → R2国勢調査33.4%(全国28.7%) → R6.4住民基本台帳34.3% (計画区域の状況) ・計画区域は、本町の中心となる五百石駅周辺の209haである。 ・役場庁舎や保健福祉施設、図書館といった町民の生活に欠かせない複数の町公共施設がある。町内の金融機関(4行)や医療機関(内科5、歯科4、整形外科1、耳鼻科1、眼科1)が集中している地域でもある。町最多の児童数を抱える立山中央小学校(R6年度546人)、町唯一の中学・高校である雄山中学校(R6年度605人)と雄山高等学校(R6年度362人)も立地している。 ・商業施設は、かつて、商店街の個人商店に加え3店舗のスーパーが営業していたのがいずれも閉店したが、現在は食品等の日用品も販売する大型のドラッグストアや、書店併設型コンビニが立地している。 ・町郊外部の日常的な買い物ができる商店が無い地域からも公共交通機関でアクセスできる立地を背景として、近隣の住民だけでなく、自家用車の運転が難しい町郊外在中の高齢者も。日常的に町中心部に足を運んでいる。また、小学校・中学校・高校が近くにあるため、子供たちの姿もよく見かけることができる。 (まちづくりの経緯) ・町の主な事業として、定住人口の増加を図ることを目的とした五百石駅西側での中前沢地区土地区画整理事業(地区面積25.7ha)を実施した。 ・H19年度からH23年度まで「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らすことができる都市の実現」を目標に都市再生整備計画(前沢地区)を実施し、多機能複合施設「みらいぶ」内に五百石駅、保健センター、図書館、町民交流広場を整備した。 ・H24年度からH28年度まで「『みらいぶ』を軸とした活力と賑わいあふれるまちづくり」を目標に都市再生整備計画事業(五百石地区)を実施し、「みらいぶ」周辺の道路整備を通じて交通アクセス改善、交通安全確保を図った。 ・H26年度、町中心部にかがやき保育園を整備し、「みらいぶ」と併せて子育てと福祉の拠点機能を発揮している。
課題 【中心部の賑わいと暮らしやすさ】 ・町中心部は都市機能を有するエリアとして維持すべく、町郊外から中心部への円滑な交通や交流の充実と促進を図る必要がある。 ・町中心部の住民や来訪者に休息・やすらぎの場を提供するとともに、地域コミュニティーの醸成に寄与する場の提供が必要である。 【中心部における人口の維持】 ・町中心部からの人口流出に伴い、空き家、空き地が増加しており、これらを放置することは町の賑わいがなくなり町の活力が低下することに繋がる。そのため、用途地域でもある町中心部に、住宅地の開発を促す必要がある。 ・中心部の道路にある歩道部は狭いため、車いすや電動シニアカー等がスムーズに通ることが出来る空間が求められている。 ・町の玄関口である五百石駅の利用者数が年々減少しており、交通結節点としての機能の向上を図る必要がある。
将来ビジョン(中長期) ■第10次立山町総合計画(R3～R12)(R2年度策定)における目指すべき姿 ・幹線道路の整備が進むとともに、道路利用者が安全・安心に利用できる道路が整備されている。 ・高齢者一人ひとりが尊重されながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる町になっている。 ・五百石駅周辺の賑わい創出により中心市街地が活性化するとともに、町民が町内で買い物や交流を快適に楽しんでおり、地域内経済循環が改善されている。 ・すべての子どもたちが心豊かで心身ともに健やかにたくましく育ち、次世代の親となっていく環境が整うとともに、保護者が地域の温かいまなざしに包まれ、働きながら安心して子育てができる町になっている。 ■立山町中心部公共施設再配置計画(R2年度策定)における中心部のまちづくりの整備方針 1. 行政・防災機能の強化：防災や災害対策の拠点機能を発揮していくための施設整備を図る。 2. 文化・交流機能の強化：町民の文化振興や交流を支える施設を活用し、まちなか中心部での文化・交流機能の維持、強化を図っていく。 3. 子育て・福祉機能の強化：子育て・福祉の拠点施設を適切に維持し、子育て世代から高齢世代までが、暮らしやすいと思える地域づくりを進める。 4. 賑わい空間の形成、回遊性の向上：町の各資源や施設を結びつけながら、町内外から人や活動を呼び込む取り組みを進めていく。 5. 居住環境の充実：移住定住の受け皿となる良好な居住地の整備を図るとともに、生活道路の改善等により居住環境の向上を図る。

都市構造再編集集中支援事業の計画								
都市機能配置の考え方 ・本地区は、立山町立地適正化計画において、居住誘導区域を設定した区域と合致する。都市計画上の用途地域(商業地域、近隣商業地域)も含まれる、富山地方鉄道立山線「五百石駅」から半径800m以内の範囲を都市機能誘導区域として設定する。 ・この区域は、もとより本町の中心拠点として、各種公共施設や都市機能施設が集積していることから、今後もこれらの機能を維持・存続させていくこととし、さらに公共交通のネットワークを強化し利便性の向上を図る。								
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ・中心市街地にある旧藤木病院跡地及び隣接する私有の低未利用地を活用し、町民のニーズである医療施設(歯科・皮膚科等)と町立五百石公民館の機能移転を前提とした官民複合施設を整備することとし、民間活力導入可能性調査を実施する。								
目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度	
五百石公民館の利用者数	人	五百石駅周辺に新しく整備する交流センターの利用者数	地域の課題解決に貢献する情報交換・交流の推進	4,916人／年	R5年度	7,350人／年	R10年度	
用途地域内世帯数	世帯	居住誘導区域内における世帯数の数	子育て環境の向上による定住・移住者の維持	2,072	R5年4月	2,204	R10年4月	
駅前歩行者数	人	交通量調査による数	児童や高齢者が安心して移動することが出来る環境整備	286	R5年	350	R10年度末	

計画区域の整備方針 【五百石駅周辺地区において多世代の町民が交流し賑わいの創出を目指す。】 ・町立五百石公民館を地域交流センターとして整備し、多世代の町民が交流する地域活性化の拠点とする。 ・五百石駅周辺地区への転入者の受け皿となる住宅地の開発を促す。 【五百石駅周辺地区において子どもから高齢者までが快適に過ごすことができる生活環境の整備を目指す。】 ・五百石駅周辺におけるバリアフリー化を促進し、歩行しやすい空間を整備する。 【五百石駅周辺地区において快適に回遊することができる道路環境の整備を目指す。】 ・道路及び地域防災機能を備えた広場空間の整備により、利便性を向上し安全・安心な道づくりを実施する	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】(高次都市施設)(仮称)五百石地域交流センター 【提案事業】(住宅取得助成)居住誘導区域住宅支援事業 【提案事業】(住宅団地造成助成)居住誘導区域団地造成支援事業 【基幹事業】(高質空間支援施設)歩行支援施設 【基幹事業】(道路)町道西口線 【基幹事業】(道路)町道中前沢上前沢線 【基幹事業】(道路)町道中前沢3号線 【基幹事業】(道路)町道駅南1号線 【基幹事業】(地域生活基盤施設)広場 【基幹事業】(地域生活基盤施設)地域防災施設
その他	

ごひやう　こく　えき 五百石駅周辺地区(富山県立山町)	面積	209　ha	区域	五百石、前沢
--------------------------------	----	--------	----	--------

